

連結貸借対照表

(単位 億円)

	前期末 2011年 3月31日現在	当第1四半期末 2011年 6月30日現在		前期末 2011年 3月31日現在	当第1四半期末 2011年 6月30日現在
A 資産の部			B 負債の部		
流動資産	4,721	6,436	流動負債	4,475	5,189
固定資産	14,553	14,396	固定負債	9,540	10,595
繰延資産	5	4	(有利子負債)	(9,388)	(11,046)
			負債合計	14,016	15,784
			C 純資産の部		
			株主資本	5,168	5,034
			その他の 包括利益累計額	34	△ 40
			少数株主持分	61	58
			純資産合計	5,263	5,052
資産合計	19,280	20,837	負債純資産合計	19,280	20,837

A 資産の部

航空機購入等のための新規資金調達により手元資金が増加したことなどから、前期末より1,556億円増加し、20,837億円になりました。

B 負債の部

新規借入により有利子負債が1,658億円増加し、11,046億円になったことなどから、前期末より1,767億円増加し、15,784億円となりました。

C 純資産の部

四半期純損失の計上や配当金の支払いにより利益剰余金が減少したことなどにより、前期末より210億円減少して5,052億円となりました。自己資本比率は24.0%となりました。

事業別セグメント収支

(単位 億円)

		前第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで	当第1四半期 2011年4月1日から 2011年6月30日まで
航空運送事業	売上高	2,745	2,743
	セグメント利益又は損失(△)	11	△ 92
旅行事業	売上高	327	264
	セグメント利益	6	0
その他	売上高	341	334
	セグメント利益	10	9
合 計	売上高(消去前)	3,414	3,342
	セグメント間取引消去等*	△ 345	△ 291
	売上高(連結計)	3,068	3,050
	セグメント損益(消去前)	29	△ 82
	セグメント間取引消去等*	0	1
	セグメント損益(連結営業損益)	29	△ 81

*セグメント間の取引の消去や調整額を指します。

※金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てています。
※決算に関する資料は、当社ホームページでもご覧になれます。

ANA 検索 → IR情報 → 決算・IR情報 → 決算短信

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

(単位 億円)

	前第1四半期 2010年 4 月 1 日から 2010年 6 月30日まで	当第1四半期 2011年 4 月 1 日から 2011年 6 月30日まで
【連結損益計算書】		
営業収入	3,068	3,050
営業費用	3,038	3,131
営業利益又は損失(△)	29	△ 81
営業外収益	18	23
営業外費用	77	87
経常損失(△)	△ 29	△ 144
特別利益	0	0
特別損失	23	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 53	△ 146
法人税等	△ 0	△ 61
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 52	△ 84
少数株主損失(△)	△ 0	△ 0
四半期純損失(△)	△ 52	△ 84
【連結包括利益計算書】		
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 52	△ 84
その他の包括利益	△ 203	△ 75
四半期包括利益	△ 255	△ 160

事業別セグメント情報

● 航空運送事業

東日本大震災の影響により需要が大きく落ち込みました。ビジネス需要は4月を底に回復基調に転じ、6月には前年同月並みの水準に回復しましたが、プレジャー需要は4月を底に回復傾向にあるものの、需要の戻りは弱い状況です。減便や機材の小型化で需給適合を進めるとともに、新運賃「週末割引」の設定などにより需要喚起を図りました。

● 国際線旅客

震災の発生後、ビジネス需要は早期に回復しましたが、プレジャー需要の回復は遅く、とりわけ訪日需要は大きく落ち込みました。減便や機材小型化等を実施し、需給適合を推進するとともに、割引運賃の設定を充実させるなどプレジャー需要の確保に努め、訪日需要に対しては、各国の視察旅行を積極的に誘致しました。また、4月より太平洋路線でユナイテッド航空・コンチネンタル航空とのジョイントベンチャーを開始したほか、6月19日には中国内陸部への初めての路線となる成田ー成都線を開設しました。

● 貨物

国内貨物は、震災の影響で陸送からの代替需要が発生したことなどにより、輸送重量は増加しました。国際貨物は、緊急性の高い医療品・水等の生活物資やメーカーでの部品の在庫転送など、航空輸送の特性を生かした需要が高まる中、需要の取り込みに努めました。

● 旅行事業

国内旅行は、震災の影響により、東京ディズニーリゾート関連商品をはじめとした各地発関東方面の需要が低調だったことなどから、売上高は前年同期を下回りました。海外旅行は、主力の「ANAハローツアー」を中心に旅行需要が低迷した影響が大きく、売上高は前年同期を下回りました。その結果、旅行事業収入は前年同期より19.0%減少して264億円となり、営業利益は48百万円になりました。

● その他

その他の営業収入は前年同期より2.1%減少して334億円になり、営業利益は9億円になりました。

航空運送事業収入

(単位 億円)

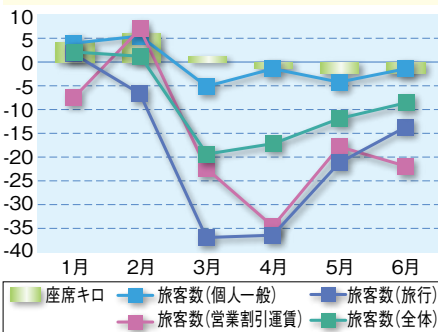
	前第1四半期 2010年 4 月 1 日から 2010年 6 月30日まで	当第1四半期 2011年 4 月 1 日から 2011年 6 月30日まで	前年同期比 増減率 (%)
国内線旅客	1,435	1,345	△ 6.2
国際線旅客	641	692	8.0
国内線貨物・郵便	84	87	4.6
国際線貨物・郵便	207	244	17.9
その他	377	372	△ 1.3
合計	2,745	2,743	△ 0.1

国内線旅客数・国際線旅客キロ・国際線貨物トンキロの推移(前年同月比)

(単位 %)

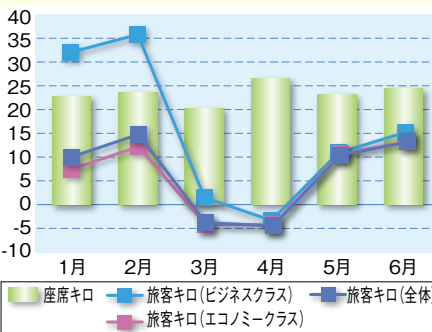
■ 国内線 旅客数推移

運航規模の調整を図る一方、旅客数は回復基調へ



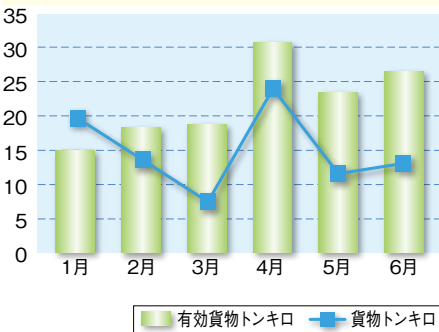
■ 国際線 旅客キロ推移

新規路線効果もあり、旅客需要は前年を上回り推移



■ 国際線 貨物トンキロ推移

前年を上回る輸送実績を確保



輸送実績

		前第1四半期 2010年 4 月 1 日から 2010年 6 月30日まで	当第1四半期 2011年 4 月 1 日から 2011年 6 月30日まで	前年同期比 増減率(%) 利用率はポイント	
旅 客	国内線 ※4 ※11	旅客数 (万人)	956	816	△ 14.7
		座席キロ※1 (億席キロ)	136	133	△ 2.1
		旅客キロ※2 (億人キロ)	83	71	△ 14.9
		利用率※3 (%)	61.7	53.6	△ 8.0
	国際線 ※11	旅客数 (万人)	122	127	4.0
		座席キロ※1 (億席キロ)	66	83	25.1
		旅客キロ※2 (億人キロ)	51	54	6.8
		利用率※3 (%)	76.9	65.7	△ 11.2
貨 物	国内線 ※8 ※10	有効貨物トンキロ※5 (百万トンキロ)	450	426	△ 5.4
		貨物輸送重量 (千トン)	103	108	4.7
		貨物トンキロ※6 (百万トンキロ)	104	108	4.5
		郵便輸送重量 (千トン)	7	8	3.9
		郵便トンキロ (百万トンキロ)	7	8	4.8
		貨物重量利用率※7 (%)	24.8	27.5	2.6
		国際線 ※9	有効貨物トンキロ※5 (百万トンキロ)	698	888
	貨物輸送重量 (千トン)		132	140	6.2
	貨物トンキロ※6 (百万トンキロ)		485	563	16.1
	郵便輸送重量 (千トン)		5	5	10.2
	郵便トンキロ (百万トンキロ)		25	27	10.0
	貨物重量利用率※7 (%)		73.1	66.6	△ 6.5

※1:座席キロ=座席数×運航距離(キロメートル) ※2:旅客キロ=旅客数×運航距離(キロメートル)
※3:利用率=旅客キロ÷座席キロ ※4:国内線旅客数には、IBEXエアラインズ、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、スターフライヤーとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。 ※5:有効貨物トンキロ=有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル)。なお、旅客便については、床下貨物室(ベリ)の有効貨物重量に各区分距離を乗じた数値。床下貨物室の有効貨物重量には貨物、郵便のほか、搭乗旅客から預かる手荷物搭載の有効搭載重量を含む。 ※6:貨物トンキロ=貨物輸送重量×運航距離(キロメートル) ※7:貨物重量利用率=(貨物トンキロ+郵便トンキロ)÷有効貨物トンキロ ※8:国内線貨物および国内線郵便の実績には、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、オリエンタルエアブリッジとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。 ※9:国際線貨物および国際線郵便の実績には、コードシェア便の実績(当社販売分)、ブロック・スペース契約締結便実績および地上輸送の実績を含む。 ※10:国内線深夜貨物定期便の実績を含む。 ※11:国内線、国際線ともに不定期チャーター便の実績を除く。